

## 竹田市経済活性化促進協議会

### 人材育成セミナー報告書

1. セミナー：第1回 有償サービスによる暮らしのサポーター養成セミナー  
第3回 雇用拡大メニュー 地域福祉・介護企業化支援セミナー
2. テーマ：『地域生活を支える住民のチカラ』
3. 日時：平成23年12月11日（日）10：00～12：00
4. 場所：竹田市総合社会福祉センター 多目的ホール
5. 講師：社会福祉法人 中津市社会福祉協議会  
地域福祉課 吉田 瑞穂氏
6. 内容：

#### 講義内容

- はじめに、講師より、本日は講義とワークショップも行うことを説明する。  
午前中は地域づくりの話を中心にするが、前回の人材育成セミナーに参加した人は内容が重複する部分もあるかと思う。  
午後からは内容をもっと掘り下げた話をするので、午後からも残れる人は是非受講して欲しいと案内する。  
また、今日は社協の人も多く参加しているが、肩書きを気にすることなく、一市民として参加してくれたらいいと思う。
- リラックスする為に二人組になりじゃんけんし、勝った人がまず昨日のことを相手に2分間話す。負けた人は例えつまらない内容だったとしても、ひたすら相槌を打ったりして聞く。  
2分経過したら交代する。  
聞く時は少し大げさなくらい相槌を打って欲しい。
- ・人に話をする時、人の話を聞く時の感じはどうだったろうか？  
見ていると色々な姿勢がある。  
絶対に目を合わないペア、しっかり見つめ合うペア、その姿勢は様々である。



## 1. 中津市について

- ・中津市は福岡が近く、生活圏域が福岡寄りの人もある。
- ・中津市の人口は 8,600 人。
- ・地域性に併せて人口をみると、山間部は全体のおよそ 12%。平野部で 20%、市街地で 60%
- ・中津市は 15 地区に分け、地域福祉を進めている。
- ・住民主体の活動が主となって、「住民による住民の為の活動」に取り組む。
- ・社協が確認しているのは、寄り合いのサロンは 38 ヶ所。
- ・有償サービスの団体の数は 9 グループ。
- ・生き生きサロンは、年 4 回程度は活動している団体を生き生きサロンとして位置づけしている。
- ・ミニデイサロンは、月 1 の活動、公民館ではなく、学校区程度の規模に拡大したものが該当。
- ・地域サロンは 4 つ。空き家を利用したり、誰かの自宅の一角であったりして、より人が集まりやすい場所にし、週 1～3 回活動している。
- ・空き家を利用した寄り合い所である 4 つの家が建ち、「すずめの家」、「めじろの家」、「はちどりの家」、「ふくろうの家」という鳥の名前が付けられている。
- ・始めに「すずめの家」が出来た時に自由に羽ばたけるよう、鳥シリーズでいきたいなと願っていた。次の寄り合い所を作ろうということになった時、話を持ちかけてみると他のところも話に乗ってくれた。
- ・こうして鳥シリーズの寄り合い所が出来た。
- ・有償サービスのニーズが集まる場合は、このような人が集まるサロンだった。
- ・地域福祉を推進する要素として重要なことは、地域や行政の考えがお互いにぶれないように決めること。
- ・人材育成⇒地域福祉意識の拡充。
- ・関係づくり⇒住民相互の結びつき。
- ・サービス・活動⇒個人及び地域の生活課題を解決する。
- ・しくみづくり⇒地域福祉ネットワーク。

## 2. 沖代地区と山国地区について

### ●沖代地区について・

- ・沖代と山国は地区の広さや人口数は違うが、高齢者数がほぼ同じ。  
人口数が違うので高齢化率は違うが、高齢者に対する問題は共通していると思われる。
- ・沖代は新興住宅地で、隣に誰が住んでいるかもわからないような地区だった。  
この地区でミニデイサービスを利用していた高齢者の悩みから、有償サービ

スが立ち上がった。初めは市が推進し、老人給食ボランティアグループが活動を開始し、お弁当配りから始める。

- H15には、公民館を利用したボランティアサロンが出来、グループが結成する。
- 男性の料理教室や高齢者のミニデイも始まる。
- H17には、住民参加型の有償サービスグループが発足。
- その後も様々なボランティアグループや活動が生まれた。
- 公民館では行きにくかった人も、H12に空き家を利用した寄り合い所「すずめの家」が出来たことにより利用する人が増え、認知症も受け入れるようになった。
- 寄り合い所である「すずめの家」などは登録制ではない。
- 事前に行くことを告げることもない。
- 昼まで来てご飯だけ食べて帰る人も居れば、夕方まで居る人も居て、利用方法は自由。
- 急に包括の人が来て、体操しましょうということもある。  
このような利用方法が自由に出来るのが特徴。
- 運営資金を得る為にバザーを開催。社協なども資金援助はしているが、それだけではなく、自分たちで資金を得るために利用者が率先してバザーを開催している。  
バザーにより売り上げがあることがやりがいになり、高齢者が進んで頑張っている。
- 沖代地区では、これまでにボランティア団体が自由に活動を行ってきた。  
その為、すでにネットワークは出来ていたので地域づくりを推進することから始めた。  
地域の人達だけではなく、その取り組みに市も後押ししていることを周知することで住民の理解と協力を得る。  
取り組みを始めてから現在で20年が経過した。  
20年かかり、住民の「思い」から仕組みづくりまで発展した。  
「すずめの家」という拠点が出来たことにより、他の活動が広がってきた。  
仕組みづくりとは、長い年月をかけて出来上がっていく。

#### ●山国地区について

山国地区では過疎化が進んでいる。限界地区に近づいている。

このままでは50%をこえるのではないかと思っている。

沖代と違い、山国地区では昔からの関係が築かれていた為、すでに基盤は作られていた。

山国地区ではすでに地域との関わりが保たれていた為、ここではまず仕組

みづくりから作っていきこうと社協が仕掛ける形で動き始めた。  
人材に限られる地区もあるので、地域のことを考えている代表の人に集まっ  
てもらった

アンケート集計をし、地域が抱えている問題を出していった。

課題が見えれば、ひとつでも解決に向けて動こうという動きが見える。

その中には市が解決しなければならない問題もある。

集まってきた代表者は、課題を見つけまとめる役目を担った。

その人たちとは別に、地域に広めていく人も育成しようとした。

- ・体育館を利用した 100 人ほどの参加者がある活動が出来、今も継続している。  
今は行政が協力し移動出来ているが、今後の問題は移動手段をどうするかで  
ある。

- ・モデル地区の隣の町でも、同じように仕組みづくりをしてみるようになった。  
「この地区をなんとかしたい！」という住民の考えの元、寄り合いの場所  
を作る計画を立てる。

何か一つが動き出すと、次々に動き出すのが地域の特性。

次々と動き始める。源流の里やまくに福祉の会という住民のネットワークが  
立ち上がる。

もっと何か仕掛けがいるのではないかと思い、社協から買い物支援を投げか  
けてみようと動き出した。

- ・欠かせないのは、住民のまとめ役となる存在を作ること。  
福祉の会の中につなぎ役という役目を担ってもらわないといけない。  
初めに基盤が出来ていなければ何事も進まない。  
地域の人の「思い」がないと行政だけで動いてしまうことになる。まずは基  
盤づくり。

### 3. グループワーク 9人1組で4つのグループに分かれる。

知り合いばかりや社協の人ばかりで固まらないようにする。

付箋紙が配られるので1人3枚程度持ち、地域で暮らし続けることが出来る  
かを考える。

自己紹介から始める

#### ①テーマ「自分は80歳を越え、自宅での1人暮らしの設定」

- ・足腰は少し弱くなったが、デイサービスを利用するところまでではない。  
この設定で、日常生活を送る上で自分が困るだろうと思われることを、付箋  
紙1枚につき1つ考える。出来るだけ具体的に考える。  
今は出来ているが、その頃には出来なくなることや不便になるだろうことを  
考える。

前回のサポーターのセミナーの時には、回覧版が回せなくなると書いていた

参加者がいた。そんな具体的な内容を書いて欲しい。  
まずは自分自身のこととして考える。  
今はドライブが好きで出かけているが、80歳をすぎたらどうなるだろう？  
など、暮らしの課題を想像し書く。



## ②グループ内発表

各自で考えたことを、それぞれのグループ内で発表する（10分間）  
中には考えが重なることもあると思う。

## ③発表し合ったことを自助・共助・公助に分ける。

自助・・・自分たちで解決出来ること

共助・・・地域で助け合えば解決できること

公助・・・行政の責任で解決出来ること

- ・このようなグループワークを行った時、地域によっては公助にたくさん貼り行政の責任だと言われることもあった。

今日の参加者は地域づくりに積極的な人達ばかりだと思うので、そういうことにはならず、仕分け作業が出来ると思う。

※出てきた問題が自助、共助にも公助にも該当すると思われるなら、同じ内容をどちらにも貼る。

この作業は、午後の講義で更に掘り下げて話し合うことに使う。

貼り終わったら、グループごとに発表してもらうので、発表者を決めておく。

1つひとつを読み上げる必要はなく、貼り分けたことを手短かにまとめる。

他の班が発表する時は、講義の最初にした人の話を聞く態度で聞いて欲しい。



#### 4. 発表

##### ●グループ「花と水と木」

- ・自分たちの力や近所だけでは解決できないことがわかった。
- ・話し相手が居ない問題は、多くの協力者が居ないと解決できないと思った。

##### ●グループ「とまとちゃん（萩の人が多かったから）」

- ・みんなで助けってもらうことに集中した。
- ・料理が出来ないという問題が出た。  
自分で出来る事と、助けてもらわないと出来ない事が半々で別れた。
- ・移動手段などの手助け。
- ・行政にも援助してもらわないといけないという問題。

- ・寂しくなると思う。

##### ●グループ「うぐいす」

- ・多くの課題があり、すべての問題に対し自助も共助も公助もそれぞれに役割があると考えた。
- ・災害時の避難。
- ・ゴミだし。
- ・緊急時の対応。
- ・外出の機会（サロンなど）移動。買い物の手段。
- ・お金（財産）の管理は行政かと思う。

##### ●グループ「ぼかぼか」

- ・もうすでに発表にあったものが多い。
- ・日常生活や精神的な不安、経済的な不安を感じる。
- ・共助をしてもらうにも、周囲に友達が居ない。  
今から友達作りをしなければならないとも思った。
- ・財産管理、田や山の管理も出来なくなる。
- ・その頃の歳になると、家族も居なくなっているかもしれないので、自分の葬式を出してくれる人が居なくなるのではないか。



## 5. まとめ

住民を相手とする時は出された問題の解決策を考え、それを自助などに分けるのだが、今日は問題点だけを仕分けてもらった。

実は問題点を仕分けるのは難しい作業だったが、参加者は見事に仕分けた。

午後からは「共助」の部分に仕分けた問題を課題にし、有償サービスを立ち上げることの必要性を話し合ってもらいたいと思う。

### ●まとめ

- ・地域づくりの要は共助にある。
- ・行政からの指示が出ないと出来ないという意見が出ることもある。
- ・自助も共助も出来ることには限りがあるが、考えが広がるのは共助。
- ・地域力を上げようという方針で中津市も取り組んでいる。
- ・地域住民全体にはいろいろな課題がある。  
それを吸い上げていくのが地域のネットワークの役目となる。  
そこから住民による活動やボランティアが生まれる。
- ・沖代では地域づくり→ネットワークづくり→活動だった。  
山国では地域やネットワークづくりが出来ていたので、活動が先だった。  
この取り組みの中に社協も入れようかと思ったが、あえて外側に位置づけ、行政でも手の届かない部分を補助する役目を社協が担うことにした。
- ・人が繋がる。まずは自分自身が人と繋がろうと思うことが大切。  
まだ外側には輪の中に入っていない人が多く居るので、その人達を自分が繋いでくために内側だけではなく外側にも目を向ける。
- ・どんなに年を取ろうと、その地域で「自分が居ていいのだ」という存在価値を認めること。  
「あなたがいていい、あなたが居るから楽しい、あなたが必要だ」という実感がやりがいや生きがい、生きる力になる。
- ・サロンなどに来ているボランティアが利用者の存在を認め、ボランティアの活動などを社協や行政が認める。  
誰が誰の存在を認めるのかと多面的に考える。
- ・午後からは午前中に仕分けた課題をもとに、もっと深く考えていきたいと思うと説明し、講義を終了する。

## 6. 閉会

ワークショップをしてみると、改めて住民が主役の仕組みづくりが大切だと思った。

企業化支援で参加してくれた人も引き続き参加して欲しいと案内する。